




『忍び寄る不安と祈り』 寸評

- ・タイトルとは裏腹に終始不安が感じられる曲調
- ・短調で線的に動かそうとして手詰まりになった印象
- ・チェロのどこにも和声外音がみあたらず全体に単調なひびき
- ・各楽器の出番を工夫し（特におわりかた）、m.9-12 あらたな動機をちりばめる等、編成上の工夫はよくうかがえる
- ・  は  にしたほうがいっそスッキリ

完成度をさらに上げるために

- ・ m.5 b.6 I, II Vn. スラーがほしい
- ・ m.9 からのレドシラソ動機もスラーを要求している
- ・ m.8 からの分散和音上行形を *f* でクレッシェンド
ややそこまでの意義をみいだしにくい
- ・ m.15 *rit.* は全体にかかわる指示なので最上段の上側に
ひとつ書けばよい
- ・ m.1  =60 **Pesante** 重々しく ←この順序にしよう
- ・ m.2 b.3 Va. 課題旋律とちがうけど
- ・ m.6 b.6-m.8 II Vn. 増音程進行ならびに共通音の保留がなされておらず
はなはだ不自然
- ・ m.3 b.4, m.5 b.4 Va. とチェロがひっくりかえっている
- ・ m.7 b.4-6 ドミナントの基本形で主和音に解決したい

m.=measure 小節番号のことです。

b.=beat 拍のことです。

現今の不安をわたしたちたしかのような...

持麿 勉